

APU国内学生保護者会 2022年度 オンライン懇談会

APUの現状ご報告

副学長 浅野 昭人



本日のテーマ

1. APUの近況
2. APUの概要
3. 2023年度からの新展開
4. 新教学棟・新国際教育寮



I. APUの近況

APUの近況

秋期以降、感染対策を徹底した上で、対面を基本としたコロナ感染症以前の日常が戻りつつあります。



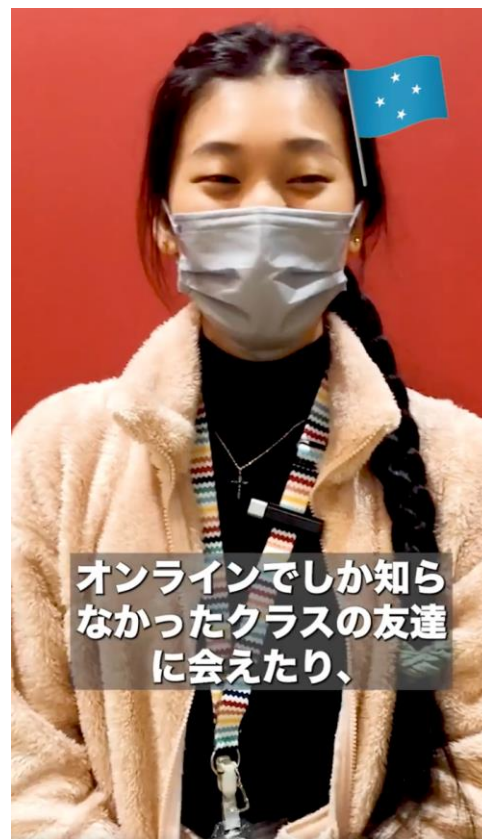
APUの近況

4月より校務復帰している出口学長と校友会代表（ジュネーブ 国連本部勤務）が秋期入学式で挨拶を行いました。



APUの近況

APU's Multicultural Campus is Back!



<https://www.facebook.com/watch/?v=786360465860544>

APUの近況

卒業生を迎える対面講義も再開し、ウクライナ出身卒業生（日本在住）、ベトナム在住の卒業生も招聘。



国連開発計画（UNDP） アフリカ局長セミナーを開催



産官学で取り組むSDGs –APSの授業でブレインストーミングを実施



APMの学びの集大成-フンドーキン醤油の海外展開戦略を提案



APUの近況

10月29日（土）・30日（日）学生活動の集大成 第20回「天空祭」が本格的に対面開催予定



APUの近況

タイウィーク約3年振りの開催



第7回大学太鼓フェスティバルに和太鼓”楽”が出演しました。



Off-campus Study Programフェアの風景



APUの近況

海外の交流（海外留学プログラム）も段階的・条件付きで再開しています。

The screenshot displays the APU Off-campus Study Program website. The header includes the APU logo, navigation links, and a search bar. The main content area features five program cards:

- FIRST (海外) [2022年度春 semester]**: For Domestic 1st year students. Program duration: 約1週間. Implementation period: 春 semester クォーターブレイク期間. Implementation location: 台湾、韓国.
- FIRST (国内) [2022年度秋 semester]**: For International 1st year students. Program duration: 約1週間. Implementation period: 秋 semester クォーターブレイク期間. Implementation location: 九州北部.
- SECOND [2022年度春 semester]**: SELF Confirmation and Development program. Program duration: 約2週間. Implementation period: 夏休み期間 (8-9月). Implementation location: マレーシア、タイ.
- SECOND**: SELF Confirmation and Development program. Program duration: 約2週間. Implementation period: 夏休み期間 (8-9月). Implementation location: マレーシア、タイ.
- APU GLAD**: Global Learning for sustAinable Development. Hybrid-style multicultural collaborative learning program. Implementation period: ハイブリッド型 多文化協働学習プログラム.

A vertical sidebar on the right contains a link to "海外留学プログラム". A "PAGE TOP" button is located at the bottom right.

海外留学プログラムの実施

●SECOND（マレーシア・タイ）

→実施済み

●交換留学・ダブルディグリー

→実施中

●FIRST（1～2セメスター日本語基準学生対象）

→引き続き、実施見送り（派遣国での入国後の行動制限があるため）

オンラインで学内にて実施



2. APUの概要

APUについて

2022年秋期より学生の出身国・地域数：**102**（開学以来初めて）

日本・世界から集う 学生数 5,643	学生に占める 留学生の割合 45.5%	学生の出身国・ 地域数 94
開学以来の入学者 出身国・地域数 161	国内学生 就職率 97.8%	海外協定大学 機関数 493



APUについて

Times Higher Education Japan University Rankings 2022



- 「国際性」全国1位にランクイン
- 総合順位5年連続 西日本の私大1位
- 全国私大では5位（全体24位）

全国 私立大学トップ5

- 1位 国際基督教大学（東京）
- 2位 慶應義塾大学（東京）
- 3位 早稲田大学（東京）
- 4位 上智大学（東京）
- 5位 立命館アジア太平洋大学（大分）

※英国教育専門誌タイムズ・ハイヤー・エデュケーション（THE）による世界大学ランキング日本版2021ランキングは、教育リソース/教育充実度/教育正課/国際性の4分野を指標として構成

QS Stars University Rating System



- ・ 「エンプロイアビリティ」「インクルーシブネス」「国際化」「施設」の4分野の評価で5つ星を獲得



※英国のグローバル高等教育評価期間であるQuacquarelli Symonds (QS) が実施するQS Stars Rating Systemは、教育/エンプロイアビリティ/国際化/アカデミックデベロップメント/学習環境/プログラムの強みなど8つの評価指標に基づき、分野別にそれぞれ星1つから5つまでの評価を行う外部評価システム

APUについて

UNWTO(The World Tourism Organization of the United Nations) TedQual (Tourism Education Quality)



- ・観光分野のCertificateを取得
- ・日本で2校目、私立大学では初
- ・2021年度に認証の最長期間である4年間の再認証を取得（～2025年4月）

国内取得大学

1校目 和歌山大学（国立）

2校目 立命館アジア太平洋大学（私立）

※国連世界観光機関（UNWTO）の関連組織であるUNWTO Academyが実施する観光学教育、研究、訓練プログラムの質向上を目的とした認証制度

AACSB (The Association to Advance Collegiate Schools of Business) International accreditation



（国際経営学部・経営管理研究科）

- ・2016年8月に認証を取得
- ・入学時に日本語の能力を問わず、英語での受講のみで学位を取得できる学部と大学院一体での取得は日本初

国内取得大学

立命館アジア太平洋大学

名古屋商科大学

慶応義塾大学大学院経営管理研究科

国際大学

早稲田大学大学院経営管理研究科

※ビジネス教育の国際的な認証評価機関であるAACSBインターナショナルが、世界でも最高水準の教育を提供する教育機関を認証する制度。世界に約16,000あるビジネスユニット（スクール）の内、トップ5%にあたる、56カ国・874校のみが取得

AMBA(Association of MBAs)



（経営管理学科）

- ・2020年8月に認証を取得
- ・世界のビジネススクールの2%にあたる277校のみがAMBA認証取得
- ・日本国内のビジネススクールでは2校目の取得

※英国の国際的な認証評価機関AMBAが実施する大学院レベルのマネジメント教育に関する認証制度



多角的なネットワーク

開学前から、教育研究機関や自治体との連携のみならず、
経済界、学術界など、世界のトップリーダーから多岐にわたるご支援

経済界・学術界

Academic Advisors

65名 ※2021年4月1日時点
ノーベル賞受賞者をはじめ、
国内外の研究者や教育関係者からの
教育・研究面でのご支援

Advisory Committee

288名 ※2021年4月1日時点
世界の元首・大使、
日本経済界を代表するリーダーからの
奨学金、就職、インターンシップ受入れなどのご支援

Supporting Group

236 企業・個人から、
開学時に留学生奨学金等でご支援



教育研究機関

海外協定大学機関数 **493**

※2021年5月1日時点

自治体

地域とのネットワーク

大分県と県内外22市町村と友好交流協定 締結
長野県飯田市、宮城県気仙沼市、福岡県福岡市、
佐賀県有田町（県外協定締結市町村）

年間 オンライン交流会を含む延べ **1,365** 名の小中高生が来学

※2019年度は約 **11,445** 名の小中高生が来学



※2020年度実績

APUで学んだ人たちが世界を変える。

この多文化が共生する国際社会には多様な価値観が存在し、対立や摩擦が否応なく生じる。

異なる文化と価値観の違いを認めて理解し合い、自由で平和な世界を築く「世界市民」を育成する。

これが、APUの目指す「自由・平和・ヒューマニティ」「国際相互理解」「アジア太平洋の未来創造」という理念の核心である。

APUで学んだ一人一人が、自由と平和を追求する人間として、人間の尊厳に対する畏敬の念を抱き、世界で、日本で、それぞれの住む地域や立場で、他者のために、社会のために行動することにより、世界が変わる。

APUで育つ「世界を変える」人とは

- 他者と協働し、対話を軸に対立を乗り越え、社会に影響を与えることができる。
- 異なる文化との衝突や遭遇したことのない困難への耐性がある。
- 多様な視点やアイデアから、新しい価値を創造することができる。
- 自分自身のゴールを描き、生涯学び成長し続けることができる。

「世界を変える」人を育てるためにAPUは

- 比類ない多国籍・多文化環境を活かして、世界市民として成長するための学習や活動の機会及び生活環境を提供し、世界に誇るグローバル・ラーニング・コミュニティを創成する。
- 教育・研究の質を絶え間なく向上させ、世界で通用する新たなグローバル・ラーニングの価値を創造する。
- APUの財産である世界中の卒業生や地域社会のステークホルダーとのつながりを深化させ、教育活動や大学運営で協働する。

—APUは世界に誇れるグローバル・ラーニング・コミュニティを構築し、そこで学んだ人たちが世界を変える。

4年間を通じたキャリアプログラム

- Step 1（1回生）：4年間どう過ごすか考える
 - ・ 新生オリエンテーションでキャリアオフィスの活用法を学ぶ・1回生向け授業「キャリア・デザインⅠ」の開講
 - ・ ＊キャリアオフィス資料室やキャリア系のイベントに積極的に参加を！
- Step2（1回生～2回生）：将来像のモデルを提示
 - ・ 企業や国際機関など社会人の校友を招いた講演会を実施
- Step3（1回生～3回生）：学生生活を通して職業観を形成
 - ・ インターンシップへの参加
 - ・ 企業研究などキャリアに関連した授業への参加
 - ・ 起業を目指す学生のための出口塾への参加など
- Step4（3～4回生）：就職・進学へ本格始動
 - ・ オンキャンパスリクルーティングや各種就活セミナーへの参加
 - ・ オンラインによる個別相談や内定者企画の活用など

APUについて

立命館東京キャンパス

- 場所は、東京都千代田区丸の内1-7-12サピアタワー8F
(東京駅日本橋口、大手町駅B7出口からすぐ)

立命館東京キャンパスは、立命館大学の学生と立命館アジア太平洋大学の学生が利用可能で、就活ピーク時は、1日70名ほどの学生で賑わいます。主に就活で利用する学生が多いのですが、在学生であれば誰でも気軽に立ち寄ってパソコンでの作業などができます。卒業生も利用できるのも、ふらっと遊びに来ます。



3. 2023年度からの新展開

APS, APMの詳細は
後ほど学部セッションにてご案内いたします。

APUについて

2023年度からのAPU：3学部2研究科



2023年度新学部の設置 サステナビリティ観光学部



サステナビリティ観光学部

新学部開設の趣旨

社会情勢への対応
× APUの強みが活かせる分野を強化する
教学改革

*2023年4月設置構想中。

世界レベルやコミュニティレベルの課題

- ・資源の枯渇、環境汚染、気候変動等、人類社会の持続可能性（サステナビリティ）の課題
- ・観光産業の成長による社会変化、オーバーツーリズム等による環境・社会への負荷
- ・グローバル化の中での地域再生

社会のニーズ

- ・持続可能な社会に関する教育・研究
- ・持続可能な観光に関する教育・研究
- ・環境・社会・経済の3つの柱で持続可能な社会を形成する理論と実践
- ・将来世代と現在を生きる世代のニーズを同時に満たしうる社会を構築することは若者にとってニーズであり「現実的な目標」

APUの強みを活かし、新学部として対応

これまで培った環境学、開発学、観光学等の教育研究実績、一村一品運動など地域開発のモデルを創造してきた大分・別府という立地、95カ国・地域から集まる学生で構成するキャンパスという特徴を活かし、新学部として展開することで社会的な要請へ対応する

サステナビリティ観光学部

新学部のコネプト

ミッション

サステナビリティ観光学部は、「自由・平和・ヒューマニティ」、「国際相互理解」、「アジア太平洋の未来創造」というAPUの基本理念の下に開設される。本学部は、持続可能な社会と観光に関わる現代的な課題や地球規模の問題を解決するために学術的知識と革新的な研究に取り組む**学問的実務家**

(**Scholar-practitioner**) のコミュニティを目指す。

人材育成目的

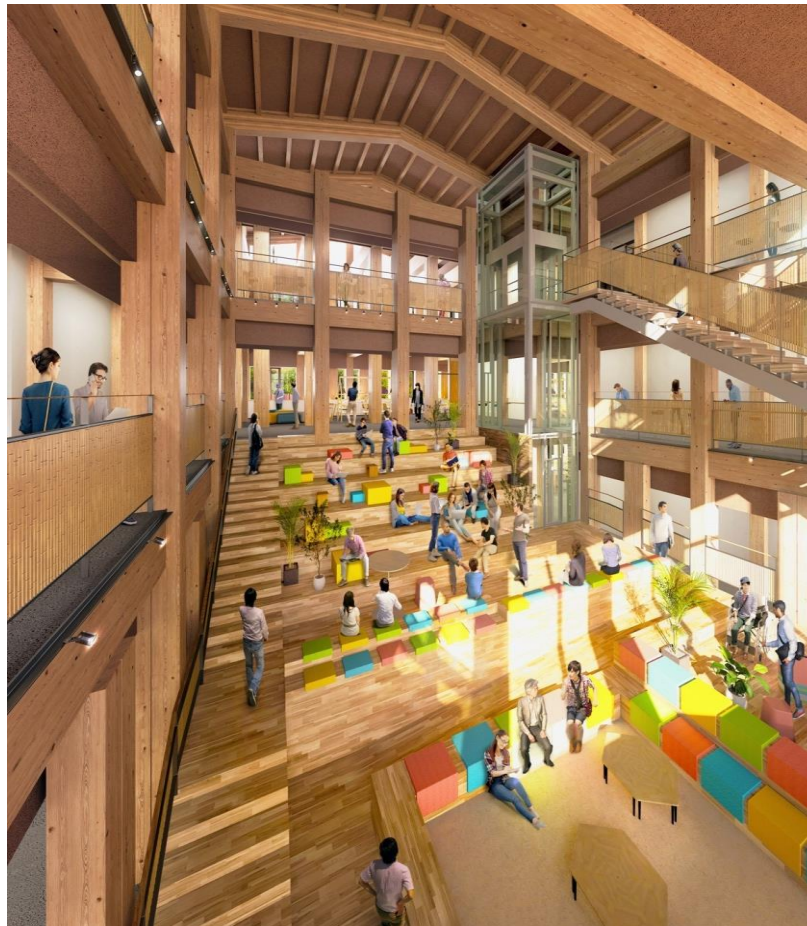
サステナビリティ観光学部は、社会学を基盤としたカリキュラムおよび**キャンパス内外**における様々な社会の活動主体と協働した学びを通じ、社会と地域について学問横断的に理解し、持続可能な社会の形成と観光に関する**基礎的・専門的知識を修得し**、論理的・批判的な思考、定性的・定量的な**分析、問題解決**および異文化環境における**コミュニケーションや協働の力**を身に付けることで、**様々な社会課題に対処**でき、**世界市民**としての責任感に基づいて行動できる人材を育成することを目的とする。



*2023年4月設置構想中。

4. 新教学棟・新国際教育寮 (2023年2月完成予定)

新たな教学棟および国際教育寮APハウスの概要



教学新棟 ＜建築コンセプト＞

- 「グローバル・ラーニング・コミュニティ」に相応しい空間への進化
- 多様なスチューデント・コモンズ（教室以外の共通空間）を豊富に設置
- 「学生間交流」、「学生・教員間交流」、「学生・ステークホルダー・地域交流」
- グローバルで多様なコミュニティを創出
- APUの豊富なステークホルダーとの連携を促進
- APUの特徴ある「学び方」を支える教室への進化
- 活発なグループワーク、プレゼンテーション、質疑応答へ教室が最適化
- 地球規模の社会課題「持続可能な社会」実現のシンボルとして
- カーボンゼロ社会を目指して・・・大分県産木材を98%使用

新たな教学棟および国際教育寮APハウスの概要

完成に近づき、9月29日に新教学棟の内覧会（および餅まき）が行われました。





新国際教育寮APハウス

<建築コンセプト>

- 「グローバル・ラーニング・コミュニティ」に相応しい空間への進化
- Residential Education & Residential Wellbeing（学びの場としての寮、心身の健康維持のための寮）：国際教育寮の進化（Education）
- 寮生以外の学生も含め、多様な交流や協働ができる中央エリア
- 地域・企業などのステークホルダーとの交流も可能な交流ラウンジ
- 1回生のほとんどが入寮する多文化空間が可能な「Global Citizenship」としてのプログラム（Wellbeing）
- 生活空間である寮室エリアのプライバシー・セキュリティ確保
- 心身を健康に過ごすためのプログラム

APハウス新棟の教育空間

Residential Education & Residential Wellbeing を実現するためのコモンズ空間を潤沢に設置

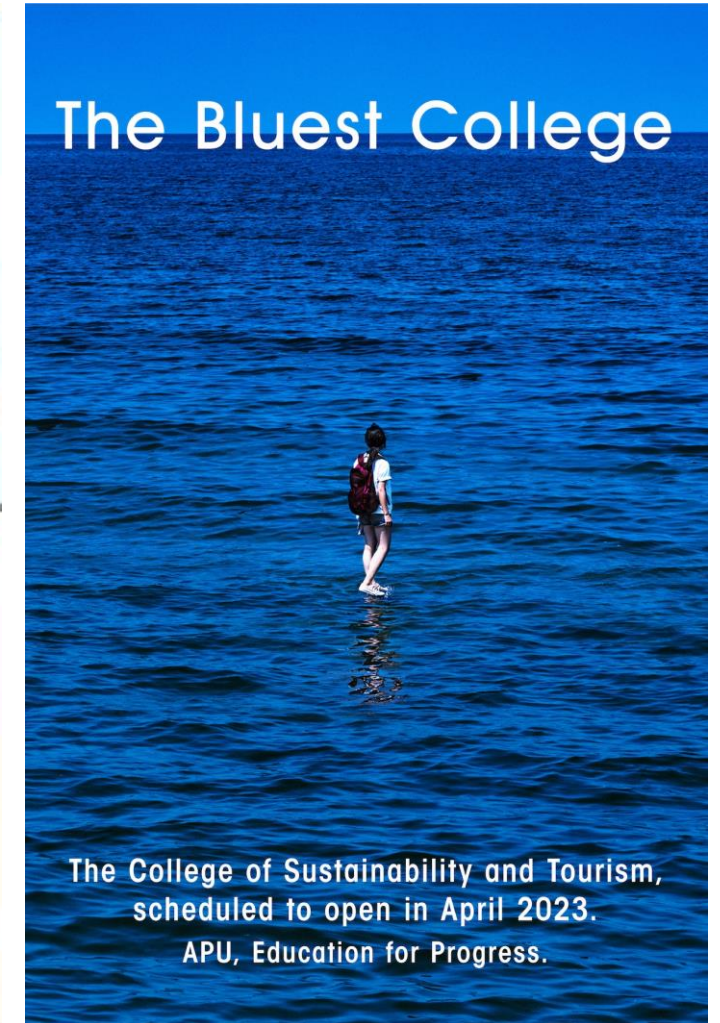
- ・ 寮生以外の学生も含め、多様な交流や協働ができる中央エリア
- ・ 地域・企業などのステークホルダーとの交流も可能な交流ラウンジ
- ・ 1回生のほとんどが入寮する多文化空間
- ・ Global Citizenship Program の大幅拡大



キャンパス中心部にAPハウス新棟



10月東京都内で新学部についての広報展開



今後の入試日程情報

入試方式		試験日	出願締切
総合型選抜	世界を変える人材育成入試 ～ロジカル・フラワー・チャート入試～	第3回 〈第1次選考〉11月26日(土)・11月27日(日) (総合評価入試) (世界を変える人材育成入試)	2022年10月27日(木)～11月9日(水)
		〈第2次選考〉12月17日(土)または12月18日(日)	
	総合評価入試	第4回 〈選考〉3月4日(土)・3月5日(日) (総合評価入試) (世界を変える人材育成入試) ※第1次選考・第2次選考同日実施	2023年2月1日(水)～2月14日(火)
	活動実績アピール入試	第3回 〈第1次選考結果通知日〉11月25日(金)	2022年10月27日(木)～11月9日(水)
		〈第2次選考〉12月3日(土)または12月4日(日)	
		第4回 〈第1次選考結果通知日〉2023年1月13日(金) 〈第2次選考〉2023年1月21日(土)	2022年12月8日(木)～12月19日(月)
一般選抜	前期方式	〈試験日〉2月1日(水)～2月4日(土)	2023年1月6日(金)～1月22日(日)
	英語重視方式	〈試験日〉2月7日(火)	2023年1月6日(金)～1月26日(木)
	共通テスト併用方式	〈試験日〉2月8日(水)・2月9日(木)	
	共通テスト方式 (後期型以外)		2023年1月6日(金)～1月13日(金)

Shape your world



Ritsumeikan
Asia Pacific University

本日はご参加いただきありがとうございました。

引き続きのご支援よろしくお願い申し上げます